

ヒメジャコの追跡調査

新 里 勝 也

1. 目 的

昭和62年から放流実施されている中城地区のヒメジャコの現況を調査し、今後の資源の維持及び養殖事業への展開のための検討材料とすることを目的とし、実施した。

2. 日 程

平成5年5月8日（大潮干潮時）

3. 場 所

中城村浜地先

4. 協 力

善行丸（仲本善行氏）、佐敷中城漁協、中城村役場

5. 方 法

昭和62年から放流された数カ所（平成4年調査対象群）を対象とし、写真撮影し、カウンターによる歩留まりを計数し、ノギスにより殻径（殻穴径）を測定した。

6. 放流実績

- ・ 1987. 4. 27 10,000 コ（平均殻長 4 mm）

埋込（ドライバー）参加者 65 人

- ・ 1987. 6. 12 5,000 コ（平均殻長 4 mm）

埋込（ドライバー）参加者 43 人

- ・ 1988. 4. 19 5,000 コ（平均殻長 mm）

埋込（ドライバー）参加者 25 人

- ・ 1988. 5. 17 12,000 コ（平均殻長 mm）

埋込（ドライバー）参加者 30 人

- ・ 1989. 5. 18 10,100 コ（平均殻長 6 mm）

埋込（ドリル、転石）参加者 30 人

- ・ 1992. 4. 18 10,100 コ（平均殻長 9 mm）

埋込（ドリル、ドライバー）参加者 39 人

- ・ 1993. 5. 8 10,100 コ（平均殻長 9 mm）

埋込（ドリル、ドライバー）参加者 42 人

7. 結 果

- ・ 1989 放流①

計 50 コ生残（H 4. 50 コ）

殻穴長 平均 100.8 mm（H 4. 91 mm）

（100.0、89.0、90.4、98.6、111.0、103.5、109.4、92.8、110.1、95.2、111.1、94.3、100.4、106.6、101.0、99.5、100.6、109.7、99.2、93.2）

- ・ 1989 放流②

計 8 コ生残（H 4. 8 コ）

- ・ 1989 放流③

計 70 コ生残（H 4. 70 コ）

- ・ 1987 放流⑤（No. 2）

計 22 コ生残（H 4. 22 コ）

- ・ 1987 放流⑥（No. 3）

計 11 コ生残（H 4. 11 コ）

殻穴長 平均 87.2 mm（H 4. 81.5 mm）

（63.2、82.5、99.5、104.8、96.0、92.0、66.4、96.2、96.6、74.5）

- ・ 1987 放流⑦（No. 1）

計 22 コ生残（H 4. 22 コ）

- ・ 19 放流⑧

計 6 コ生残（H 4. 6 コ）

殻穴長 平均 97.9 mm（H 4. 85.8 mm）

（90.0、77.9、102.4、102.0、105.8、109.4）

- ・ 1989 放流⑨（転石への放流群）

殻穴長 平均 73.7 mm

（72.0、69.6、73.7、75.3、75.2、72.0、71.4、75.3、72.2、80.3）

・ 1992 放流⑩

穀穴長 平均 27.9 mm (H 4. 9.1 mm)

(24.9、26.4、34.1、26.3、25.6、22.6、23.5、
24.6、28.0、21.7、27.8、30.4、30.8、30.3、
31.5、31.0、26.9、30.8、30.3、31.3)

8. 考 察

結果に示されたように 1989 年以前の放流群は収獲サイズ (8 cm) に達している。さらに写真のように、成長の結果お互いに接触しているのも見られる。これらのことから、間引きの意味でも収獲してもよいと思われる。

ただし、いっぺんに解禁にしようとするすぐに取りつくしてしまう量なので、ある程度の取り決めをする必要がある。

参考までに項目別に考えられることを例にあげ

る。

(1) 収獲箇所

- ・保護区を設定し、ここだけは全面禁漁にする。
- ・輪採方式にし、年ごとの収獲場所を決める。

(2) 収獲時期

- ・収獲時間を決め共同作業とする。
- ・夏場の成長期及び産卵期を避け、9月以降に収獲する。

(3) 収獲対象

- ・くっついていてる個体からとる。
- ・大きめの個体からとる。

(4) 収獲方法

- ・価格の維持を図るため、少しずつ収獲する。
- ・平成5年9月以降は養殖ものとして扱われるので、穀付きでサイズを揃える、注文販売で売る、など出荷方法についても検討する必要がある。



昭和62年度放流群。良好。
平均 8.7 cm (一年前は 8.1 cm)。



昭和62年度放流群。
接触しケンカしている。○印一個減。



密漁された放流群。